

飛躍

TOKAI UNIVERSITY TAKANAWADAI JUNIOR & SENIOR HIGH SCHOOL

HIYAKU

第448号



東海大学附属高輪台高等学校・中等部 学校報

●発行日/2025年2月1日

●発行者/東海大学附属高輪台高等学校・中等部 校長・片桐知己治

「知性と品性、そして感性を」

若き日に汝の思想を培え

Cultivate your thoughts in your early days

若き日に汝の体躯を養え

Nurture your body in your early days

若き日に汝の智能を磨け

Develop your intellect in your early days

若き日に汝の希望を星につなげ Aim your hopes towards the stars in your early days

TOP*NEWS

第40回 附属高校生のための ヨーロッパ研修旅行 5年ぶりの開催



A回 フランス 凱旋門前にて



B回 デンマーク 人魚姫の像にて

ヨーロッパ研修を終えて

3年10組 今井 夏海

ヨーロッパでの研修旅行を終えて、私は数多くのことを経験することができました。当初は異国の地で学校も年齢も違う仲間と過ごすことに不安を感じていました。しかし、バス移動やホテル、さまざまな観光地で会話を重ねるうちに、たった10日間過ごしただけとは思えないほど多くの付属校生と仲良くなることができ、本当に楽しかったです。

また、ヨーロッパの各地で、数多くの美しい歴史的建造物や街並みを肌で感じるすることができました。特に私はドイツのクリスマスマーケットが一番印象に残りました。マーケット内の出店から漂う香ばしいソーセージのにおいや、独特のにおいを放つホットワイン、光り輝くオーナメント、舞い落ちる雪、すべてが相まってとても美しく、感動しました。自分の人生にとって、決して忘れることのできない充実した研修となりました。

部・同好会活動報告

スポーツ
チャンバラ

第48回スポーツチャンバラ世界選手権大会にて グランドチャンピオンに輝く

幼い頃からの夢だった世界一

3年7組 細川 智穂

5月に香港で開催されたアジア選手権と、12月15日に東京で開催された世界選手権において、グランドチャンピオンを獲得いたしました。スポーツチャンバラは、約50年前に日本で発祥した競技です。得物と呼ばれる剣を持ち戦う「打突競技」と、形の美しさを競う「基本動作」に分かれており、私は、基本動作の部で世界一になりました。予選は、各段、級に分かれ実施され、私が出場した初段の部は、最も参加者が多い部門で、フランス、イタリア、ドイツの選手にも勝って優勝しました。グランドチャンピオン決定戦では、準決勝、決勝で、二段の部、三段以上の部の優勝者に勝って世界チャンピオンになりました。過去にこの決勝で負けたことがあったので、勝った瞬間は忘れられないものになりました。さまざまな国の選手が祝ってくれたのが嬉しく、これからも稽古を続けたいと思います。



♪ 吹奏楽部定期演奏会 ♪

第35回定期演奏会を終えて

高校吹奏楽部部長 3年1組 藤川 七美

1月6日、7日に第35回定期演奏会が終演しました。学校生活をサポートしてくださった校長先生をはじめとする諸先生方、部活動指導してくださった畠田先生をはじめとする顧問の先生方、演奏会に来てくださったお客様など、本当に多くの方に支えていただきました。とても恵まれた環境で活動をさせていただき、自分たちの目標としていた3大会金賞という結果を残すことができました。150人という大所帯の吹奏楽部での練習は毎日楽しく、時に悩むことや壁にぶつかることもありました。それでも家族よりも長い時間を過ごしてきた部員と音楽を通して仲を深め、切磋琢磨してきました。このように音楽を追求できたのも、この3年間私たちの活動を応援、サポートしてくださった皆様のおかげです。本当にありがとうございました。そして、これからも高輪台高校吹奏楽部をよろしくお願いいたします。



3年間の思い出とともに臨んだ定期演奏会

中等部吹奏楽部部長 3年A組 和氣 咲綾

今回の定期演奏会を経て、3年間があっという間だったと感じるとともに、この上ない達成感を得ることができました。とにかく音が出せるように頑張った1年目、初めて後輩ができた2年目、そして部長としてやってきた3年目。本当に多くのことをこの部活動で学ぶことができました。その中でも特に成長したことは、洞察力です。部長として過ごしたこの1年間は、日々の部活動を通して部員の様子をよく見ることが一層多くなったと感じており、そのことが自分自身の成長にもつながったと思います。

今後はこの3年間の集大成として、中等部生活最後の舞台であるアンサンブルコンテストに向けて気持ちを新たに、また頑張っていきたいと思います。



『中高生書評合戦2024』

ビブリオバトル部門 “チャンプ本” 受賞

昨年11月24日に港区立みなと図書館で行われた「中高生書評合戦2024」ビブリオバトル部門において、1年A組の岡本英大君が紹介(発表)した書籍が“チャンプ本”に選ばれ、賞状と記念品が授与されました。



1年A組 岡本 英大

先日、港区の中高生書評合戦ビブリオバトル部門に参加しました。私が紹介したのは代麻理子(だいまりこ)さんの『9月1日の君へー明日を迎えるためのメッセージ』という本です。この本は、夏休みが終わって学校が始まる時、不安を抱える人々に向けたさまざまなメッセージが詰まった作品で、読み手を励ましてくれるような温かい言葉がとても印象的な本です。

発表の際には、本の魅力をどのように伝えるかを工夫しました。また、他の先輩方の発表からも新しい視点や興味深い本に出会うことができました。賞をいただいたこともとても嬉しかったのですが、それ以上に本の魅力を共有し、聞いてくれた皆様と感動を分かち合えたことが何よりの喜びでした。

これからも読書の楽しさを広める活動に積極的に参加していきたいと思っています。

SSH活動報告

12月1日に東京海洋大学で行われた「森川海街子どもサミット」に1年生から1名、12月15日に工学院大学で行われた「東京都内SSH指定校合同発表会」に3年生が参加しました。また、12月18日から26日にかけてタイで行われた「TJ-SIF2024(Thailand-Japan Student ICT Fair 2024)」に3年生から2名が参加し、トラン校にも訪問しました。

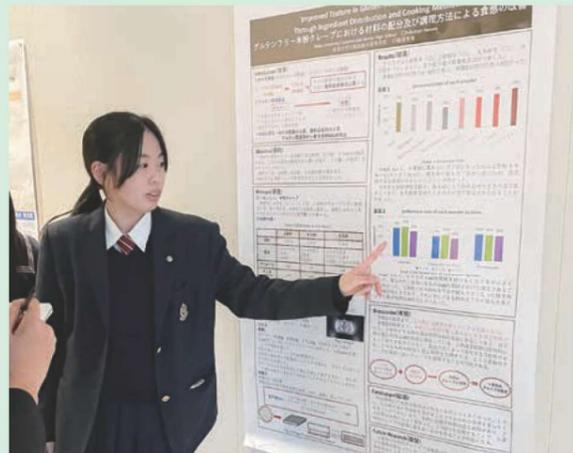
森川海街子どもサミットを通して

1年10組 黒瀨 詩保子

私は、12月1日に東京海洋大学で行われた森川海街子どもサミットに参加しました。今回のサミットで全国・世界の学生さんの発表を聞き、私が知らなかった水辺の問題やゴミ問題について知ることができました。大学生の方や全国各地の方の前でポスター発表を行うのは今回が初めてだったので、とてもいい経験になりました。また、海洋学専門の大学に足を運び、学生さんと対話を行ったことで将来の学生生活のイメージができました。大好きな海や海洋生物を守るために、私は改めて地球に優しい生活を心がけていきたいと思いました。今後はプレゼンテーションやポスター発表を行う機会が増えると思うので、今回の反省点を改善し、より良い発表にしていきたいと思っています。



奨励賞を受賞しました



ポスター発表の様子

課題研究の集大成

3年10組 福清 青南

工学院大学でのポスター発表では、他校の生徒や先生方が私のプレゼンテーションを聞いてくださり、プレゼンテーションの後にはこの先の研究に活かせる貴重なアドバイスをいただくことができました。しかし、高校生活の間では研究に専念できる時間が限られているため、課題研究をやり遂げたんだという安心感とともに、もっと早くこのアドバイスを聞けたらよかったなと思う気持ちもありました。また、他校の生徒のポスター発表を聞くことで、私が携わらなかったさまざまな研究分野に触れることができました。私は3年間SSHクラスとして活動してきた経験や今回いただいた助言を、大学での学びに活かせるよう努めたいです。

タイでの経験(成果報告会)

3年10組 内山 純伶

私は約8日間タイに行き、サトゥン校でICTフェアに参加し、トラン校で共同研究のミーティングを行いました。ICTフェアでは、タイと日本から多くの学生が集まってICTに関する研究の発表を行いました。発表を通して自分の研究に対する新しい視点を発見したり、違った分野の研究について知ったりすることができました。また、約4日間の寮生活でたくさんのイベントがあり、タイの文化を知ったり、新しい友人ができたなど、楽しく過ごすことができました。トラン校では、共同研究相手と直接顔を合わせて話し合い、これからの活動について取り決めることができました。また、タイの学校生活や授業を体験して知ることができました。



発表の様子

中等部合唱祭

12月14日、アリーナにて合唱祭が行われました。今年度は直前に後期中間試験もあり、各クラス、練習時間に苦慮しておりましたが、当日は私たちの心配をよそに美しい元気いっばいな歌声を届けてくれました。各賞は3年B組が総なめしましたが、真剣に取り組んだからこそ嬉し涙、悔し涙を流す姿も見られ、とても印象的でした。



金賞
3年B組
『ヒカリ』

3年B組 倉石 嶺

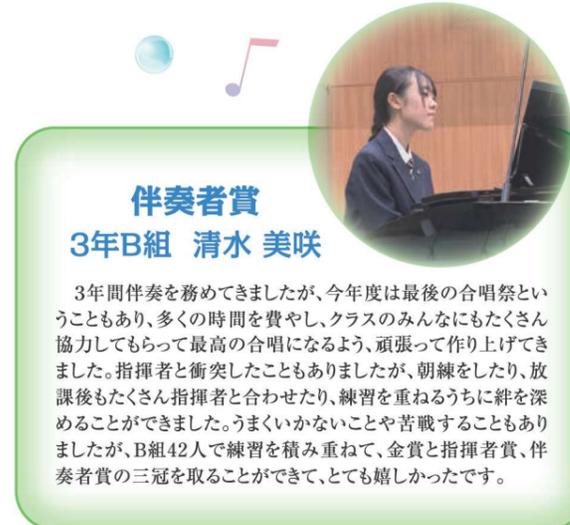
私のクラスは最後の合唱祭で金賞を取ることができました。練習は試験期間とかぶっていたので、まともにできたのが1週間ほどしかなく、それをカバーするために朝練習や放課後練習で指摘し合って、音取りの間違い等を改善することができました。みんなが時間を削って練習に参加してくれたので、最終的にはとても素敵な合唱をすることができました。これはやはり、みんなを引っ張ってくれた指揮者と伴奏者の功績が大きいと思います。最後の合唱祭を素晴らしい形で終わらせて良かったです。



銀賞
3年A組
『Cantare ～歌よ大地に響け～』

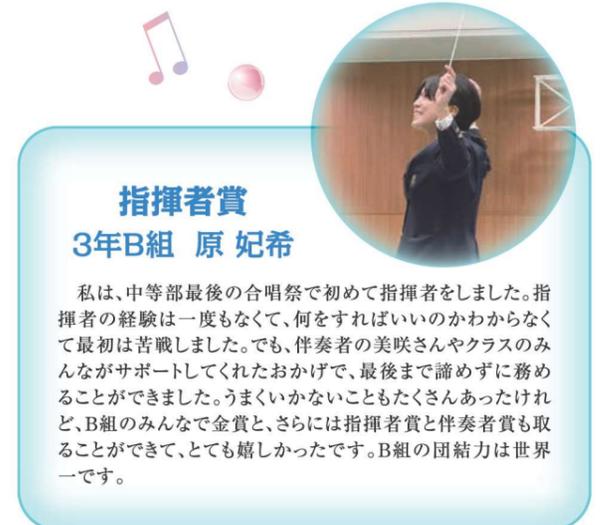


銅賞
2年B組
『地球星歌 ～笑顔のために～』



伴奏者賞
3年B組 清水 美咲

3年間伴奏を務めてきましたが、今年度は最後の合唱祭ということもあり、多くの時間を費やし、クラスみんなにもたくさん協力してもらって最高の合唱になるよう、頑張って作り上げました。指揮者と衝突したこともありましたが、朝練をしたり、放課後もたくさん指揮者と合わせたり、練習を重ねるうちに絆を深めることができました。うまくいかないことや苦戦することもありましたが、B組42人で練習を積み重ねて、金賞と指揮者賞、伴奏者賞の三冠を取ることができて、とても嬉しかったです。



指揮者賞
3年B組 原 妃希

私は、中等部最後の合唱祭で初めて指揮者をしました。指揮者の経験は一度もなく、何をすればいいのかわからなくて最初は苦戦しました。でも、伴奏者の美咲さんやクラスみんながサポートしてくれたおかげで、最後まで諦めずに務めることができました。うまくいかないこともたくさんあったけれど、B組のみんなで金賞と、さらには指揮者賞と伴奏者賞も取ることができて、とても嬉しかったです。B組の団結力は世界一です。

中等部作文コンテスト

中等部では高校生の「小論文コンテスト」実施に併せて、作文コンテストが行われました。今回の課題は「努力すること、頑張ることの大切さについて、またそこから何を得られるか、自分の経験を踏まえて書きなさい。」でした。中等部3年での高校推薦入試、高校3年生で東海大学進学希望者全員が受験する「小論文試験」を見据えての練習を毎年しています。各学年のグランプリ・準グランプリ受賞者と、グランプリ作品を紹介します。



1年 グランプリ B組 宿理 聡珂
準グランプリ A組 井藤 理玖

2年 グランプリ A組 高島 龍史
準グランプリ B組 樺木 あまね

3年 グランプリ A組 山本 心和
準グランプリ B組 倉石 嶺



写真左から 倉石君、山本さん、樺木さん、高島君、井藤君、宿理君

1年グランプリ

1年B組 宿理 聡珂

僕は、小学校6年生の時に、努力することの大切さを知りました。僕は、小学校の時にバスケットをやっていました。僕のチームは弱くて、いつも大会の時に、決勝リーグの一回戦で敗退してしまいました。しかし、6年生の時に、チームのみんなはどうしたいか話し合い、みんなで夏の大会で上位に入りたくて決めて、その日から、夏の大会で上位に入ることを目標にして、練習をしました。辛いときもみんなではげましあって、休みの日も自主練習しました。そして、夏の大会で、準優勝することができました。このことから僕は、努力することの大切さを知ることができました。最後まで諦めないで、努力することで、必ず成果になって返ってくるということが分かりました。これからも、このことを忘れずに一生懸命がんばりたいです。また、努力をしているけれど諦めてしまいそうな人がいたら、はげましたいです。

2年グランプリ

2年A組 高島 龍史

ぼくは、努力をしたり、頑張ったりすると社会で生きていくための知識が手に入るのだと思います。今、学校や塾で勉強しているのも、今後社会人となって、職場で働くときに必要な「知識」を得るためです。なので、努力をすること、頑張ることの大切さは、未来の自分がどうして生きるか、過去の自分への「こうしておけばよかった…」という後悔をしないためだとぼくは思いました。特に、まだ子供の今に、努力をするのがいいと思います。そして、そんな努力をすることで、新たな見方を得ることができそうです。努力とは、勉強だけではなく、他の人と接するとき、主観的な見方だけではなく、客観的な見方もひとつのようなだとぼくは思いました。実際に、ぼくが小学三年生のころ、主観的な考えだけで人のことを判断していたのですが、客観的な見方を知った結果、自分の友達への態度も良くなったり、元々嫌っていた友達とも遊んだりするようになりました。そのため、努力をすることは、人との付き合い方の改善や、今後の勉強などにも関係していることなので、絶対に一度はしていた方がいいと思いました。

3年グランプリ

3年A組 山本 心和

私が考える「努力すること、頑張ることの大切さ」は、「自分自身が成長した、強くなった」と感じられることだと思います。私が努力したと胸を張って言えるのは約半年前に漢字検定2級を受験したときです。2年生のときに一度、2級をうけましたが、13点足りず不合格でした。受からなかったことがとても悔しく、もう一度挑戦しようと思いました。試験一か月前から問題集を買って毎日二時間勉強し合格できました。私がそのとき頑張ったのは前回の悔しさを晴らしたいと思ったのと、母の喜ぶ姿を見たいという気持ちがあったからです。何かを目標に努力を重ねる時間は苦しい時間でもあるけれど、努力の先の達成感、喜ぶ人の姿をみて頑張ってたよかったです。心の底から思えます。このように努力は自分が一歩前に進めたなと実感できるもので、たとえ上手くいかなくても努力することが大事だと思います。

2024年度 小論文コンテスト

2024年11月8日(金)、高校3年生で東海大学進学希望者全員が「小論文試験」を受験しました。同じく、高校1・2年生は「小論文コンテスト」という名の下に同一テーマで小論文に挑戦しました。これは1年後、2年後のための予行練習という位置付けで行っているものです。

今年度は「もしあなたが大学在学中に海外留学をしたら、どの国・地域へ、どのくらいの期間、何を目的として留学するか、留学先ではどのような生活をしたいかを述べてください。」というテーマでした。

1年生、2年生からそれぞれグランプリと準グランプリが選出され、1月の朝礼で表彰がありました。以下に作品を紹介します。



左から 市村さん、黒瀨さん、小村さん、小暮さん

高校1年生 グランプリ

1年10組 黒瀨 詩保子

私が大学在学中に海外留学をしたら、アメリカのフロリダ州へ1か月間、現地の水族館で実習をしたいです。留学先では、アメリカでできた友達と同じマンションかアパートに住んで充実した生活を送りたいです。アメリカのフロリダ州で水族館実習を行いたいには理由があります。それは、フロリダにある水族館「フロリダシーワールド」は、数多くのシャチ飼育の実績を残しているからです。私は、海の生き物(特にシャチ)が好きで、将来、海の生き物に関係する職業に就きたいと思っています。そのため、今は、日本各地の水族館に行き、生き物についての情報を集めています。しかし、日本の水族館は、シャチや大型哺乳類についての情報はそれほどありません。フロリダシーワールドは、シャチの人工授精に成功している他、日本よりも沢山のシャチを飼育しています。このような中で実習させていただくことで、日本では明かされていない新たなことを発見でき、それを日本のシャチや大型哺乳類の飼育に活かすことで、今後のシャチ飼育に貢献できると思います。また、日本での実績を海外の水族館に伝えることで、お互いに情報共有をすることができます。以上の点から私は、アメリカフロリダ州の「フロリダシーワールド」で水族館実習をしたいと思っています。また、留学先では主に英語を使って会話をしようと思うので、英語力、コミュニケーション力の向上にもつながり、とても良いと思います。

高校2年生 グランプリ

2年1組 小村 倅

私の将来の夢は、病を抱える人々の1日も早い回復を食の観点からサポートする栄養士になることだ。その将来の自分の知識の幅を広げる為にも、私はもし海外留学ができるのなら、アメリカで半程度、海外の医療や栄養学を学びに行きたい。なぜアメリカなのか。理由は、多国籍・多民族社会で食文化の違う人々が集まる国では医療機関で提供される食事、栄養指導がどのように進められているのか興味があるからだ。日本では一般的に和・中・洋を中心に患者一人ひとりの病状や治療に合わせて栄養士が適切な食事を考案しているが、アメリカのようにパンや肉がメインで、日本と比べて高カロリーな食事が多い国の病院食はどのようなものか知りたい。また、前述の通り多民族社会のアメリカは患者の信仰する宗教や、それによる食べられるもの、食べてはいけないものの範ちゅうが違うだろう。このような点でも日本とはまた違ったケアが必要とされているのではないかと。栄養学を学ぶだけでなく、現地の大学や町で出会う人々や環境、文化にも多く触れたい。今年の3月に吹奏楽部の遠征でオーストラリアに行く機会があり、現地の高校生や異国の文化と交流し沢山の学びがあった。一週間程度の訪問だったが、私はその一週間で日本と海外どちらの良さも悪さも知ることができた。もし大学生のうちにアメリカに行くことができれば、現地の文化、伝統に触れ、さらに多面的に人を支える栄養士に近付けるよう学びたい。

高校1年生 準グランプリ

1年1組 市村 史帆

私は大学在学中、一か月間でオーストラリアへ留学したいです。そこで学びたいことが二つあります。一つ目は、持続可能な世界をつくるための方法をオーストラリアで学びたいからです。中学生のとき、世界では森林火災や地球温暖化、海洋汚染などさまざまな問題が起こっていると知りました。そのことについて調べた際、具体的で効果的な対策を一番多く行っているのはオーストラリアだとわかりました。一方日本では、海に捨てるプラスチックゴミの量が世界一ということにショックを受けました。私はそのときに、自分で他国へ学びに行つて持続可能な地球をつくりたいという思いが強くなりました。オーストラリアは日本と同じ海に囲まれた国なので、特に海洋汚染には力を入れて学びたいです。そして学んできたことから、日本だけでなく世界中の人々に活動を伝えて沢山の人の力になりたいです。二つ目は英語力の向上です。実際に英語が使われている場所に一人で行き、沢山のひとと会話をしたいです。一か月という短い期間でも、積極的に話しをすることで英語力が身につくと思います。また、私は将来世界中の人が集まる場で仕事をしたいので、そのためにも自分の意見を持つ力や自己主張を強めていきたいです。この二つのことから、大学在学中にオーストラリアへの留学をしたいと思っています。

高校2年生 準グランプリ

2年4組 小暮 海優

日本に生まれて約17年。朝起きて、ご飯を食べて、学校へ行って…。こんな日々を、毎日当たり前のように過ごしています。家に帰ると、母が夕飯の準備をしてくれています。私たちにとってこのような生活は、もはや普通であり、当たり前になっていると思います。しかし、世界には日本のような国ばかりではないことも、ほとんどの人が知っているはず。私は、もし大学在学中に海外留学をしたら、アフリカの貧しい人々のいる地域へ、一か月間留学したいです。発展途上国で暮らす人々にとって、日本に住む私たちの生活は、きっと当たり前ではないはず。しかしそのことをわかっているだけでは、何の意味もないと私は思います。実際にそこに住む人々と同じ生活をする中で、私たちがどうすれば力になれるかわかるはず。発展途上国に住む人々のなやみは、私たちが現地の人々と同じ生活をしない限り、わからないはず。「日本での生活は当たり前ではない、感謝の気持ちを忘れずに」と学校では教わってきましたが、感謝するだけでは何も変わらないと思います。むしろ、発展途上国の人々のことをわかったつもりになっているだけで、実際に何か行動するべきだと思います。日本で恵まれた生活を送れているからこそ、私は貧しい人々のために何が出来るのか、実際に現地に行つて知ることが必要だと思います。

学年だより 中1

初めての合唱祭

中等部1年生にとって初めての合唱祭が行われ、A組は「Believe」、B組は「大切なもの」を歌いました。

～A組～

指揮者

熊谷 希

私は合唱祭を通して協力の大切さを改めて実感しました。最初に指揮の練習をした時は伴奏と合わず不安でした。しかし、練習を重ねると少しずつ息が合い、歌も揃って楽しくなってきました。私はずれとみんなもずれてしまうので、リズムが狂わないようにするのが大変でした。本番はたくさんの人の視線を感じ、とても緊張したけれど、みんなが歌っている姿を見て緊張もほぐれ、練習通りにできました。私は音楽経験があまりないので、この合唱祭で指揮ができたことはとてもいい経験になったと思います。

伴奏者

斎藤 希紀

初めての合唱祭で、私は伴奏をしました。何もかも初めてだったので、最初は不安が大きかったのですが、練習を重ねるうちに合唱と息を合わせるこの大切さを実感しました。本番は少し緊張しましたが、無事にミスなく弾き終わることができ安心しました。また、私は鍵盤を見ながら弾いていたのですが、先輩方は指揮者をしっかり見ながら弾いていました。来年度は先輩方のような伴奏をしたいです。



～B組～

指揮者

小柳 陸

私は今回の合唱祭で初めて、指揮者というクラスを引張るとしても重要な役割をしました。初めての指揮者だったので、最初は手の動きがわからずに混乱して、合唱とずれてしまっていました。しかし、家で練習をしていくうちに少しずつできるようになりました。合唱祭本番では、私がミスをしたらクラス全体のリズムが崩れると思い、とても緊張しましたが、いざ始まると緊張が和らいであまり硬くならずに、とてもよく指揮ができたと思います。

伴奏者

阿部 竜弥

私は中学生になって初めて合唱祭に参加し、伴奏を担当しました。初めての合唱祭であるとともに、伴奏という大きな役割を担っていたので、とても緊張しプレッシャーを感じていました。そこで、落ち込んでいる私の背中を押してくれたのが友達の声掛けでした。私の友達は、「緊張するよね」や「自信を持って」などと、私の緊張がほぐれるような優しい言葉をかけてくれました。結果は、賞が取れず残念でしたが、私にとっては最高の合唱祭でした。



学年だより 中2

合唱祭



合唱祭では、どちらのクラスも心を合わせて素晴らしいハーモニーを披露することができました。また、合唱祭に向けた練習を通して、よりクラスの絆が深まったように感じます。合唱祭後は、音楽の授業で自分たちや他のクラスの合唱を振り返りました。今年度の経験を、来年度、最後の合唱祭に活かしてほしいです。



A組

伴奏者 三井 陽菜乃



指揮者 佐藤 朱莉



B組



伴奏者 樺木 あまね



指揮者 押田 陸

今回私たちは「HEIWAの鐘」を歌いました。歌詞が多くて覚えるのが大変でしたが、本番でははっきり歌うことができました。また、各パートの音がきれいに聞こえてきてとても良かったです。3年B組の合唱が最初から最後まで、音量もハーモニーも素晴らしいので圧倒されました。(杉本 愛莉)

今年度の1年生は、昨年度の私たちと比較しても、遥かにレベルが高いと感じました。3年生の合唱は「これは勝てない」と思うほど上手でした。特に3年B組は全員の「勝ちたい」という気持ちが伝わり感動しました。(大井 寛晃)

今回の合唱祭では、パートごとにできないところを繰り返し練習しました。初めは声が小さく各パートの音が聞こえませんでした。日が経つにつれ声を通りともきれいな歌声にすることができました。本番では焦りや緊張からテンポが早くなり、伴奏や指揮と合わなかったところもありましたが、大きな声で歌えたので練習してきたことを発揮できたと思います。来年度は金賞を取りたいです。(田中 穂夏)

最初は、先生の話が聞けなかったり、練習中もふざけたりとまとまっていなかった。しかし、本番が近づくと強弱や鼻濁音を意識したり、自主的に練習する生徒がいたり、クラスがまとまってきたように感じました。合唱祭を通して、B組はやる時はやる、やる時はできるクラスだと思いました。(杉浦 大和)

A組の良かったところは、声がかかり出ていたところ。また指揮者をよく見ていたので、歌の入りタイミングが合っていると思いました。またサビの「平和の鐘～」のところは特に雑にならないように、全体的に伸ばして歌うことを意識しました。(長尾 泰河)

リハーサルで、初めてアリーナで歌った時は思ったより声が届かず心配になりました。しかし、本番を迎えたら練習の時よりも声が大きくて、今まで一番良い合唱になったと思います。放課後練習では川村先生が大きな声でアドバイスをしてくれて、とても助けられました。銅賞が取れて本当に嬉しかったです。(羽田 更彩)

合唱祭を通して、一人ひとりが協力し合って頑張ることが大事だと思いました。みんなで協力して行う行事は貴重なもので、これからも頑張りたいです。他のクラスはパートごとにしっかり音程が取れていて、音量もあつたので、見習おうと思いました。また、歌う時の表情も大切だということにも気づき、曲調に合わせて表情を変えようということも参考になりました。(平井 陽向)

合唱祭本番では、リハーサルや教室での練習よりも一番声が出ていたので良かったと思います。また、3年A組の合唱は声のアリーナ全体に響き渡るような歌声がとても素敵でした。来年度は最後の合唱祭なので、3年生の良いところを参考にして、次は金賞を取るように頑張りたいと思いました。(藤森 亮人)



キャリア教育



今回のキャリア教育では、株式会社ローソンの方が授業をしてくださいました。普段利用しているコンビニエンスストアの意外な取り組みや企業努力などを知ることができ、とても貴重な経験になりました。

A組 三井 陽菜乃

今回話を聞いて、自分が楽しいと思う、やりがいのある職に就くことが大切だと気づくことができました。二人の方からお話を聞きましたが、どちらの方も自分がやっている仕事にやりがいを感じ、またそこからさらに成長するために目標を立てていると教えていただきました。私は、楽しくないと努力はできないと思います。だからこそ働くにはまず、その仕事に自分が楽しめるものなのかを考えることが大切だと思いました。今後私にも進路を決める時が来ますが、その時は自分がやりたいと思える職を見つけていきたいです。また、そのために勉強なども頑張っていきたいです。

B組 原口 莉奈

今回のキャリア教育では、身近なお店のいろいろな情報が聞けて、面白かったです。まず、ローソンの中にも多様な仕事があることを知りました。また、ローソンストア100やナチュラルローソンなど、さまざまな種類のローソンがあることに驚きました。さらに、ローソンについて教えてもらった時、食事の配達サービスや、薬についてネットで教えてくれる窓口など、お年寄りでも気軽に使えるサービスがあると聞いて素晴らしいと思いました。未来のローソンがどのようなものか楽しみになりました。この授業を通して、自分の将来のことなどの視野がとても広がったと感じました。

学年だより 中3

キャリア教育・芸術鑑賞を通して

キャリア教育

後期中間試験明けの12月5日に、キャリア教育として自衛隊の方に来ていただきました。自衛隊の仕事内容や防災について学びました。



A組 小川 葵衣里

今回のキャリア教育では、普段は話を聞くことができない自衛隊の方々が来てくれました。地震が来た時にどう行動をすればいいのか、段ボールでの簡易トイレの作り方、ペットボトルを使ったランプの作り方などを学ぶことができました。

A組 野口 青央

自衛隊がどのような活動をしているのか、どのような種類の仕事があるのかを学びました。普段の生活にも使えるようなことも学んだので、活かしていきたいと思いました。

B組 幸田 時光

災害時に生きるためのサバイバル術を学ぶことができました。災害時の知識クイズや、簡易トイレの作り方、ほどけないひもの結び方を実際に教えてもらいながら学ぶことができました。

B組 村杉 京祐

災害が起きると、いつも当たり前のように手に入るものが手に入らないことを改めて知りました。しかし、家にある日用品で代用できることを知り、いざとなった時に覚えていられるようにしたいなと思いました。



簡易トイレ作り



もやし結びにトライ



銃剣道体験



防災クイズにチャレンジ



12月6日の校外活動(芸術鑑賞)で劇団四季の『ライオンキング』を鑑賞しました。壮大なスケールの劇に生徒たちも大変感動していました。

芸術鑑賞 『ライオンキング』

A組 井上 一希

小さいころ、一度親と見たことがあったのですが、今回改めて見てみると衣装の細かな細工や、言葉の意味が理解できたりなど、いろいろな気づきがたくさんありました。また、ティモンが出ている場面は面白く、ずっと笑っていました。

A組 山入端 輝

私は映画で見たことがあり、内容は知っていたので展開はわかっていたのですが、劇場だと迫力が全然違い、それにとっても驚きました。実際に人間が表現しているのが熱量もすごく感じ、また家族や友人と見に行きたいです。

B組 新井 たえ

演者さんたちの演技のすごさにとても感動しました。特に子役の子は、私たちより年齢が小さいのに大勢の観客の前で堂々と演技をしていて、すごいと思いました。その演技のうまさにも驚き、泣いたり笑ったりしました。

B組 木村 滉英

初めの場面で、演者全員で歌う歌声がとても心に響き、生命のつながりを深く感じました。また、シンバの成長物語にも勇気ももらえました。劇とは思えないほどの壮大なセットにも驚きました。とてもリアルで臨場感あふれる舞台でした。



学年だより 高1

高校現代文明論「現代文明の諸問題」学年発表会

現代文明の諸問題についてクラス内で発表が行われ、クラス代表が決まりました。どのクラスも工夫を凝らしていて、内容も発表の仕方も素晴らしいものでした。発表を終えた生徒たちの感想をご覧ください。



1組 市村史帆・清水奈央・長崎至臣

オリンピックにおけるエネルギー問題

私たちは、12月20日に現代文明論で、「オリンピックにおけるエネルギー問題」を発表しました。多くの生徒や先生がいる中だったので、とても緊張しましたが、緊張しながらも、自分たちが伝えたいことをしっかりと伝えられて良かったです。他のクラスの発表も、現代における諸問題とその解決方法を知ることができ、とても良い学びになりました。

2組 飯田桜太・清水大成・中村凌飛

ドーピングについて

私たちは、近年話題に上がるドーピングについての発表を行いました。単にドーピングと言ってもさまざまな、自分自身の能力を高めるものや、使用する物の改造などがあり、その行為の危険性に関して、どのような形で発表するか班のメンバーと共に考えました。数ある発表の中で記憶に残る発表にするため、明るく、例を用いて発表することにして、原稿を考えました。発表を終えると、しっかりと準備したからこそ得られる達成感でいっぱいになり、班のチームワーク向上を感じました。これからもさまざまな活動に積極的に参加していきたいと思っています。

3組 竹田菜・原田大夢・宮林樹・連彩絢

人種差別について

今回の発表について、今まで特に直視してこなかった社会問題を、授業を通して改めて確認することができて、良い機会だったと思います。私たちの班のテーマである人種差別には、身近な原因として先入観からの差別や、歴史的背景によって根付いた思想などが挙げられます。今回、それらの偏見を取り除くことが大切だと伝えることができ、嬉しい限りです。

4組 田中果南・西村幸大・三宅聖夢

平和の大切さ

私たちは平和の大切さについて発表する中で、普段の当たり前がどれだけ大切に再度気づかされました。一人ひとりが平和を願い行動することで、争いのない世界が実現できると感じました。この発表をきっかけに、自分にできることは何かを考え、日々意識して暮らしていきたいと思っています。

5組 川島悠正・草壁彩瑛・小西絃仁・平林義皇

公害について

私たちは今回の現代文明論の発表を通して、今まで知らなかった知識をたくさん身につけることができました。人にわかりやすく伝えるためには、まず自分がしっかりと理解し、見やすいスライドを作るなどの工夫が大変だと思ったので、メンバーと役割を決めて良い発表を行うことができるように努力しました。また、他の班の発表を聞いて、新しい知識や発見だけではなく、スライドの見せ方や話し方なども学ぶことができ、とても良い発表会になったと思いました。

6組 稲田綺香・堀田凌成・森村椿

羽田空港と成田空港

今回の発表のテーマを通して、国際について多く学ぶことができました。例えば、今の東京の国際問題や今後の国際関係などについて、私たち一般市民ができることは何なのか、各自自治体や国が取り組んでいることは何なのかなどです。その中で、私たち高校生も日本の伝統や観光に対してもっと理解をして、東京を国際的な都市に発展させることが大事だと思いました。

7組 宇都宮彩子・高林杏奈・松澤咲希

生命

私たちは、「人の死に関する諸問題」について発表しました。事前準備の時間が少なく、直前になって慌ててしまいましたが、班員のおかげで良い発表ができました。学年発表のために内容を凝縮することが大変でした。この発表は自らの最後について考えるきっかけになり、それまでの人生を充実させるため、これからも勉強を頑張ろうと思いました。

8組 池田芽蓮・北見讓・小林和樹

生命について

今回、現代文明論の発表をして感じたことは、自分はあまり多くの人の前で話すことは得意ではないので、とても緊張しましたが、発表が始まるとスラスラ発表することができました。また今回の現代文明論を通して、普段あまり考えることのない生命について深く調べ、考えることができました。特にこの世界にいない生物がいるかどうかを考えている時に、アリはいてもいなくても変わらないと考えましたが、調べてみるとアリは意外にも大きな役割を果たしていることがわかりました。今回調べたことや発表したことを生かしていきたいです。

9組 田口大喜・春木来斗・山田蓮太郎

死刑制度

死刑制度について皆にどうやってわかりやすく伝えることができるかを考え、工夫して作りました。また、先生方も含め、これほど大勢の人の前で発表する機会はありませんでしたので緊張しました。しかし、何度も練習した成果をきちんと出せたので良かったです。これから先、パワーポイントを使って発表する機会がたくさんあると思うので、今回の発表会での経験を活かしていきたいと思いました。

10組 高木翔天・仲井央輔・吹場悠介・武藤大志

飢餓をゼロに

私たち10組は、福祉をテーマに「飢餓をなくす方法」について発表しました。私たちは、飢餓の原因について考え、貧困が飢餓の根本的な原因であるという考えを導き出し、解決する方法をまとめました。今回発表を通して学んだことは、情報を整理してわかりやすく伝えるということです。具体例を使ったり、要点を絞って説明したりと、わかりやすく伝える工夫をしました。これからは今回の学んだことを活かして、研究課題の発表やプレゼンをしていきたいと思いました。

学年だより 高2

代替わりした部活動紹介

高校2年生という期間もあとわずか、部活動ではほとんどの部活動が新キャプテンで日々練習に励んでいます。10月号に続き、キャプテンにチームの意気込みや目標を述べてもらいました。



弓道部

5組 北村 俊人

弓道部、そして部長として今年の目標は2つあります。1つ目は、団体でインターハイに出場することです。昨年は個人でインターハイに出場できました。今年は団体でもインターハイに出場できるように、日々努力していきたいと思ひます。2つ目は、部の雰囲気や団結を良くすることです。現状では練習中に切り替えができていないことがたまにあります。なので部員の気持ちの切り替えができるように、部長として貢献していきたいです。

剣道部

3組 垣井 昭太郎

剣道部新キャプテンとして、これからはチームを引っ張っていく立場になります。今まで支えられてきた分、次は自分が支える側に回りたいと思ひます。部員一人ひとりの気持ちを大事にし、みんなが成長できる場を作りたいです。昨年、成し遂げることができなかったインターハイ出場、そして関東大会上位進出を目標に全員が一丸となって結果を残せるように頑張ります。応援をよろしくお願ひします。

軽音楽部

8組 小林 葵衣

軽音楽部はこれから「桜梅桃李」を目標に個人の技術向上に励み、楽しめる部活動にしていきたいです。ライブに出る演者としてだけでなく、ライブの運営にも力を入れています。学年に関係なく仲良く教え合い、音楽を通じた楽しさや面白さを学べる軽音楽部の良さを活かしていきます。建学祭や他校との合同ライブ、部内でのライブ、大会出場などそれぞれの目標に向けて部員全員で頑張っていきます。軽音楽部への応援をよろしくお願ひします！

男子バレーボール部

2組 小泉 和希

男子バレーボール部の部長になりました小泉和希です。今年の目標である東京都ベスト4に入るために、私は自分から行動し、部員全員一丸となって、先輩たちが達成することができなかった目標を達成できるように、頑張りたいと思ひます。また、今よりもたくさんの人から応援されるような部活動の土台を作り、感動を与えられるような試合一つでも多くしたいと思ひます。応援をよろしくお願ひします。

野球部

5組 鎮目 幸大

野球部主将の鎮目幸大です。野球部では、甲子園出場を目標に日々の練習に励んでいます。常に「強い組織であり続ける」ということを全員が認識し、学校生活から部活動とプライドを持って取り組んでいます。昨年の夏と秋の大会では、どちらも1点差で負け、1点の重みを痛感したので、日々の練習から1点にこだわって取り組んでいます。そして、未だ先輩たちが成し遂げられていない甲子園という舞台でプレーできるように、チーム一丸となって最後までやり切りたいと思ひます。

ラグビー部

3組 深見 玲

ラグビー部は、関東大会出場と花園予選ベスト8を目標に日々の練習に取り組んでいます。今年度のチームスローガンは「下剋上」です。今まで勝つことができなかった相手に勝つという思いでこのスローガンになりました。昨年はすべての公式戦で悔しい思いをしたので、その悔しさを選手一人ひとりが忘れずに、きつい練習を乗り越えています。キャプテンとしてまわりから応援されるチームをつくり、今までに達成できなかったことを成し遂げたいと思ひます。応援をよろしくお願ひします。

柔道部

6組 白井 康太郎

柔道部新部長になりました白井康太郎です。今年度の柔道部の目標は関東大会、全国大会への出場です。昨年の関東大会予選では惜しくも出場することができず、とても悔しい思いをしたので、今年度は出場できるように日々稽古に励んでいます。またインターハイ予選では5位という結果で終わってしまったので、この結果を超えられるように頑張りたいと思ひます。昨年より良い結果を残せるように、チーム全員で努力していきます。応援をよろしくお願ひします。

アメリカンフットボール部

5組 篠原 旺太郎

チームの新キャプテンとして、全員が持てる力を最大限に発揮できるよう、支え合いながら一丸となって挑戦していきます。常に前向きな姿勢で、困難にも立ち向かい、結果にこだわるだけでなく成長過程も大切にしたいです。チームメイト一人ひとりの成長を促し、目標達成に向けて全力を尽くします。みんなと共に新たなチームを作るために、この役割を全うし、強い信頼関係を築いていきます。応援をよろしくお願ひいたします。

学年だより 高3

学校生活を振り返るアンケート

高校生活も残すところあと1カ月となりました。3年間で素晴らしい仲間とたくさんの思い出を作ることができましたね。3年生全体で学校生活を振り返るアンケートを実施しました。生徒たちの思い出をぜひご覧ください。

1位 研修旅行

思い出に残っている行事は？

- 研修旅行では、北海道を横断するという高校でしかできない体験をした。バスからは熊や鹿を間近に感じることができ、バスから降りると、山や湖などの雄大な自然を肌で感じることができた。(2組 山本 葵)
- 個人的には久々に行く沖縄でテンションが上がって、行き空港からワクワクが止まらなくて飛行機の中でずっと起きていた。きれいな景色やたくさん世界遺産を見て、日々の疲れが吹き飛んだ。海水浴の日はずっと泳いで、ビーチバレーをして体力が底なしだった。最終日も国際通りでたくさん買い物をして、思い出をたくさん作れた。(3組 土田 夏輝)
- カナダに行ったことがなく、刺激を受けた。また、今まで習った英語を使う良い機会だった。ホストファミリーには感謝している。(10組 三上 史温)

2位 スポーツ大会

- スポーツ大会を経てクラスの仲が一気に深まったと思ひます。どの競技にも全力で臨み、応援にも熱が入り、最高の思い出となりました。(9組 沖西 堅成)
- バレーボール部からしてもスポーツ大会のバレーボールは本当にレベルが高くて、楽しかった。その他にもいろんな人が活躍して、試合を見ている側も試合をしている側もどちらも楽しめるようなそんな日だったと思ひます。(3組 遠藤 真優)

3位 建学祭

- クラスのみんなで出店から決めて、やったことのないことに初挑戦した。シフトを組んで、あまり話さないような人とたくさん話して、この人は絵が得意だったんだとか、頼りになるんだとかいろいろ発見があった。(1組 石川 風花)
- 私は建学祭でクラスの幹部を務めました。幹部としての意識を持って自分ができることはすべてやりつくし、クラスをまとめることができました。ここまで建学祭で努力したのは初めてで、とても充実して楽しかったです。(5組 西井 理偉)

高校生活を振り返って…

- とにかく部活動に打ち込んだ3年間だった。目標に向けて努力した3年間はかけがえのないものとなり、最高の仲間もできた。(4組 河原 佑興)
- 行事だけでなくクラスメイトと過ごす何気ない毎日とても充実して楽しかった。常に笑顔の絶えないクラスで、仲間に恵まれたと思ひます。(6組 鈴木 莉人)
- とにかく毎日のクラスが楽しかった。日々の生活を通して交友の幅を広げ、さまざまな価値観に触れ合うことで、自分の視野を広げることができた。(7組 今村 優志)
- 中学とは全然違う環境で、最初は慣れるのが大変だったけれど、部活動やさまざまな行事でたくさん学ぶことができたし、充実した学校生活を送ることができた。(8組 齋藤 美咲)
- 高校生活ではSSHクラスに入ったことで、森林学習やウォータースタディなどのフィールド学習や、ユニクロや大学の教授による発表練習などのさまざまな学びの機会を得たことで、自分自身成長することができたと感じています。スキー部では少人数でしたが、合宿で皆とスキーや生活を共にすることが楽しかったです。(10組 高木 要)

お知らせ(建学祭関連)

第61回(2025年度)建学祭テーマ決定

異 彩



第61回建学祭実行委員長 深見 玲

第60回建学祭では、Harmonyというテーマのもと、各団体が物事を掛け合わせて創意工夫を凝らした展示をすることができました。来年度は、来場者に日常生活では味わうことができない経験をしてもらいたいという思いと、すべての出展団体に「より良いものを提供しよう」という気持ちで建学祭に取り組んでもらいたいという思いから、「異彩」というテーマに決定しました。

「異彩」には2つの意味があります。1つ目は普通とは違ういどり、2つ目は際立って優れた様子という意味です。今年度よりもさらに充実した出展や公演が作り上げられることを期待しています。

我々建学祭実行委員一同、建学祭を盛り上げていきたいと思っていますので、よろしくお願い致します。生徒や先生方、そして当日足を運んでくださる方々全員の思い出に残る建学祭を作り上げていきましょう!

行事予定

※予定が変更になる場合があります。

February 2月

March 3月

- 1日(土) 中等部第1回入学試験(生徒自宅学習日)
- 2日(日) 中等部入学試験合否発表(web)
- 3日(月) 中等部第2回入学試験(生徒自宅学習日)
マナー講座(中3)
- 4日(火) 中等部入学試験合否発表(web)
- 5日(水) 中等部第3回入学試験(生徒自宅学習日)
Tokyo Sightseeing Tour(中1)
- 6日(木) 中等部入学試験合否発表(web)
- 7日(金) 朝礼・月曜の授業日 答案返却(中3)
- 8日(土) 4限カット
- 10日(月) 高校一般入学試験(生徒自宅学習日)
- 11日(火) 建国記念の日
高校一般入学試験合否発表(web)
火曜の授業日
- 13日(木) 火曜の授業日
- 16日(日) 新入生制服採寸・教材販売(中等部・高校推薦・付属)
- 17日(月) 海外英語研修旅行(中3:オーストラリア ~26日)
- 18日(火) 校医相談日⑩
- 19日(水) 専門医によるカウンセリング⑩
- 22日(土) 生徒自宅学習日
- 23日(日) 天皇誕生日
新入生・保護者登校日(中等部)
新入生制服採寸・教材販売(高校一般)
- 24日(月) 振替休日
- 25日(火) 後期期末試験(中1・2:~27日、高1・2:~28日)
- 27日(木) 生徒休業日(中3:~28日)

- 1日(土) 生徒休業日(中3) 登校日(高3)
- 3日(月) スポーツ大会(高2)
基礎力判定テスト(高1)
- 4日(火) スポーツ大会(高1)
基礎力判定テスト(高2)
- 6日(木) 海外研修報告会(中等部 1~3限)
- 7日(金) 答案返却(5・6限カット)
新3学年教科書販売
- 8日(土) 卒業式予行(高3)
3年生を送る会 高輪会入会式
2限から特別授業
卒業式準備(PM)
- 9日(日) 第16回卒業証書授与式(中3)
第76回卒業証書授与式(高3)
- 10日(月) 振替休日(3/9分)
- 17日(月) 生徒自宅学習日
- 18日(火) 成績不振者指導(生徒自宅学習日)
- 19日(水) 修了式・離任式
新2学年教科書販売
- 20日(木) 春分の日
クラス分け試験(高校)
- 31日(月) 振替休日(3/20分)

編集後記

日本語に限らず、言葉っておもしろいというも思っています。たとえば「平和の心」であればすべての人類が持つべき崇高な信念のように聞こえますが、「心の平和」と言うとは何やら個人的な(そしてスピリチュアルな)印象が変わります。「鯛焼き」のような「〇〇焼き」は〇〇そのものを焼いているわけではありませんが、「焼き鳥」のように「焼き××」という名称になると必ず素材そのものを(多くは直火で)炙ります。さて、ここで問題です。「にせタヌキ汁」と「にせダヌキ汁」は何が違うのでしょうか?……ヒントは「なんの“にせ”か」です。(の)